

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2014年6月26日

報告書名：ジャパン・プラットフォーム 人道支援複数年事業 F3 事業終了報告書

平成24年度 ジャパン・プラットフォーム 事業終了報告書

2014年6月26日

事業名	初等教育改善事業	
事業対象地	アフガニスタン国 ナンガハル県	
事業期間	事業期間：2013年1月1日～2014年4月15日	
公的資金種別	ジャパン・プラットフォーム アフガニスタン・パキスタン人道支援複数年事業(第3フェーズ)	
総支出・返還金	総支出：126,909,590円(返還額：117,144円)	
プロジェクト目標および、その達成度	本事業の目的は対象地域の「児童の学習環境を改善する」ことである。①校舎建設・備品供与活動、②図書室改善活動、③子どもの学校外教育活動の3つの要素で構成し、ハード要素とソフト要素の相乗効果によって、児童の学習環境を改善する。2校の小学校において2棟32教室を建設したことにより、4,031名が安全で快適な教室で学ぶことができるようになり、就学児童は840名増加した。18校に新規に図書室を設置し、支援継続校の36校の合計72,033名の読書環境を改善した。214名の児童に学校外教育の機会を提供した。	
実施内容 概要	(1) 校舎建設活動 2校で32教室が建設され、93クラスの4,031名が野外授業から解放され、教室で学習できるようになった。教室で学ぶ児童数は、0名から4031名へと大幅に改善されたが、いまだに教室が不足しており5,794名は屋外での学習を強いられている。「教室で学習する小学部の児童数が3,432名増える」という計画時の目標は100%達成された。	受益者数 カブール市の2校の児童 9,425名、教員 225名。
	(2) 図書室改善活動 18校で図書室が整備された。支援継続校36校のひと月あたりの図書室の利用者数は658名、図書貸出数の平均値は276冊で、新規支援18校のひと月あたりの利用者数は631名、図書貸出数は241冊だった。公共図書館6館については、ひと月あたりの小学生児童の図書貸出数平均が75冊、図書室利用者数が235名であった。842名の教員が図書館活動に必要な知識、技能、態度を向上した。絵本10タイトル、紙芝居2タイトルが再版され、54校、6公共図書館に配布された。計画時の「36の小学校で図書活動が定着している」という目標はほぼ100%達成された。	ナンガハル州およびカブール市の54校の児童 72,033名、教員 1,910名。
	(3) 子どもの学校外教育活動 子ども図書館は年間に240日開館し、利用者数はのべ51,374人(1日あたり214人)で、女子の割合は50%だった。不就学児童のための特別教室を9か月間実施し、登録児童50名全員が修了した。修了	ジャララバード市内の児童 214名。

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2014年6月26日

報告書名：ジャパン・プラットフォーム 人道支援複数年事業 F3 事業終了報告書

	<p>者の親に就学促進を働きかけ、50名全員が公立小学校に編入した。 「1日当たり120人の児童が学校外教育活動に参加」、「不就学児童50名が学習機会を得る」という計画時の目標は100%達成された。</p>	
成果	<p>対象地域はカブール市およびナンガハル州である。成果1の「校舎建設・備品供与活動」はカブール市、成果2の「図書室改善活動」はカブール市及びナンガハル州の54の小学校ならびに6の公共図書館、成果3の「子どもの学校外教育活動」は、ナンガハル州ジャララバード市が対象地域であった。</p> <p>2校の小学校において2棟32教室を建設したことにより、4,031名が安全で快適な教室で学ぶことができるようになり、就学児童は750名増加した。18校に新規に図書室を設置し、支援継続校の36校の合計72,033名の読書環境を改善した。214名の児童に学校外教育の機会を提供した。</p> <p>事業全体の目標の達成度については、2校の小学校において2棟32教室を建設したことにより、4031名が安全で快適な教室で学ぶことができるようになった。また就学児童が840名増加した。18校に新規に図書室を設置し、支援継続校の36校の合計72,033名の読書環境を整備した。214名の児童に学校外教育の機会を提供した。よって、事業目標は達成されたと判断される。慢性的な紛争状況下にあるアフガニスタンにおいて、本事業の実施のタイミングは適切であった。</p> <p>子どもの学校外教育活動については、タラナ（詩）の朗読、自分たちで作り演出した劇の公演、裁縫・工作・絵画教室などの文化活動は、女子のエンパワメントに寄与していると考えられ、家の外を自由に歩けなくなる年齢に達する前に女子が自信をつけることは成人になってから役立つものと考えられる。</p>	
課題と教訓、提言	<p>学校建設活動に関して、JPF モニタリングチームによって指摘された事項に基づき、以下の点を2014年以降改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・壁の漆喰改善のために、より質の高い砂を使用し、毎週適切に水の供給を行う。</li><li>・施設維持管理のワークショップは、4月の中旬に実施する。また児童が適切にトイレを使用し、教室の壁や教室の鍵を破損しないよう、教員が児童に指導を徹底させる。</li><li>・トイレの汲み取り槽に汚物が適切に流出するように、汲み取り槽の漆喰作業を行いつつ傾斜がつくように工事する。これは2014年度から実施している。</li><li>・2週間に1度、工事および資材の質をチェックするためにモニタリングを行っているカブール市教育局のエンジニアとJPF モニタリングによって指摘された事項を伝え、改善策を協議する。</li></ul>	